

施策評価調書(1)

評価対象年度

令和6年度

めざす姿	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”
施策名	2 子どもの成長をサポートする基盤づくり
施策関係課	(子ども部)青少年対策室／(教育総務部)教育総務課・生涯学習課／(学校教育部)庶務課・学務課・指導課・川口市立高等学校

●施策の基本方針(目標)

学校・家庭・地域と行政が相互に補完・連携しながら、さまざまな社会経験の場や見守りの機会を増やし、子どもの成長をサポートする基盤をより強固なものにしていきます。

●目標指標

指標①	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査:Ⅱ-2)				単位	%
	目標値	現状値を上回る(令和7年度)		現状値	35.1(令和2年度)	指標の種別	成果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	34.300	35.900	32.400	33.600	0.000	
指標②	名称	不登校児童の割合(小学校)				単位	%
	目標値	現状値を下回る(令和7年度)		現状値	0.74(令和元年度)	指標の種別	結果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	0.860	1.200	1.990	1.920	0.000	
指標③	名称	不登校生徒の割合(中学校)				単位	%
	目標値	現状値を下回る(令和7年度)		現状値	4.25(令和元年度)	指標の種別	結果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	4.310	5.930	7.430	6.930	0.000	
指標④	名称	地域の人に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合(小6)				単位	%
	目標値	現状値を上回る(令和7年度)		現状値	41.8(令和元年度)	指標の種別	成果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	39.500	39.500	46.200	50.300	0.000	
指標⑤	名称	地域・社会をより良くするための参画意識(中3)				単位	%
	目標値	現状値を上回る(令和7年度)		現状値	35.3(令和元年度)	指標の種別	成果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	34.300	35.600	67.000	81.800	0.000	

事業額	(単位:千円)	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度決算額	令和6年度決算額	令和7年度予算額
	事業費	1,031,172	1,235,443	1,918,436	1,946,716	2,736,208
	概算人件費	128,091	153,692	165,905	182,484	187,414
	総事業費	1,159,263	1,389,135	2,084,341	2,129,200	2,923,622

* 前年度に「完了」「休止」「廃止」となった事業額についても合算されています。

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 54	単位施策② 54	単位施策③	
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
	B			54.0	

結果(平均値)が55以上:A
結果(平均値)が50以上55未満:B
結果(平均値)が40以上50未満:C
結果(平均値)が40未満:D

施策評価調書(2)

評価対象年度 令和6年度

施策を構成する実施計画事業の状況 (単位: 千円)

単位施策名 ① 学校の教育力向上								
事業名称	担当課	令和3年度 事業費 (決算額)	令和4年度 事業費 (決算額)	令和5年度 事業費 (決算額)	令和6年度 事業費 (決算額)	令和7年度 事業費 (予算額)	令和6年度の 総評価	令和7年度の 実施方向性
		概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
いじめ防止推進事業	子ども部	2,181	2,353	2,359	2,393	2,890	52	現状維持で実施
	青少年対策室	6,328	6,224	6,328	6,552	4,316		
中学校夜間学級運営費	教育総務部	3,622	1,900	2,454	2,318	3,915	56	現状維持で実施
	教育総務課	553	308	158	729	747		
中学校夜間学級運営費	学校教育部	26,301	26,275	24,938	26,948	29,069	54	現状維持で実施
	庶務課	948	924	1,501	1,782	3,901		
中学校夜間学級運営費	学校教育部	661	1,304	1,073	1,185	6,730	52	現状維持で実施
	学務課	790	770	790	810	830		
生徒指導支援事業	学校教育部	8,094	2,250	940	1,121	2,558	56	現状維持で実施
	指導課	3,950	4,620	4,740	4,860	4,980		
学校教育研修事業	学校教育部	1,101	1,203	837	962	1,343	56	現状維持で実施
	指導課	11,850	13,090	18,960	16,200	16,600		
小学校ICT運用事業	学校教育部	379,431	551,288	908,143	915,404	1,512,556	56	現状維持で実施
	庶務課	16,195	19,635	20,145	20,655	21,165		
中学校ICT運用事業	学校教育部	241,810	336,887	671,629	669,308	789,249	56	現状維持で実施
	庶務課	7,505	10,395	10,665	10,935	11,952		
教職員安全衛生管理費	学校教育部	18,266	18,365	18,301	19,363	19,959	48	現状維持で実施
	学務課	3,950	3,850	3,950	4,050	4,150		
部活動指導員配置事業	学校教育部	7,725	10,047	9,997	15,665	19,249	52	現状維持で実施
	指導課	1,580	3,080	3,160	3,240	3,320		
教職員研修事業	学校教育部	8,485	6,549	5,043	4,302	7,559	56	現状維持で実施
	指導課	15,800	16,170	16,590	24,300	24,900		
教育相談員活用事業	学校教育部	116,082	114,817	124,754	130,991	159,209	52	拡充して実施
	指導課	15,800	15,400	15,800	16,200	16,600		
不登校児童生徒支援事業	学校教育部	730	810	918	6,607	25,614	52	拡充して実施
	指導課	3,950	3,850	3,950	12,150	12,450		
学校教育研究支援事業	学校教育部	3,344	3,277	3,520	2,826	3,304	52	現状維持で実施
	指導課	6,320	13,090	13,430	13,770	14,110		
高等学校ICT運用事業	学校教育部	166,104	102,950	80,636	78,631	76,425	54	現状維持で実施
	川口市立高等学校	1,975	1,925	1,975	2,025	2,075		

単位施策名 ② 地域の教育力・健全育成活動の充実								
事業名称	担当課	令和3年度 事業費 (決算額)	令和4年度 事業費 (決算額)	令和5年度 事業費 (決算額)	令和6年度 事業費 (決算額)	令和7年度 事業費 (予算額)	令和6年度の 総評価	令和7年度の 実施方向性
		概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
青少年センター等施設管理費	子ども部	5,494	5,413	4,651	5,992	7,127	42	現状維持で実施
	青少年対策室	1,422	5,313	5,451	5,589	5,727		
青少年体験活動事業	子ども部	60	277	1,459	2,407	2,663	52	現状維持で実施
	青少年対策室	0	3,850	3,950	4,050	4,150		
親子ふれあい事業	子ども部	1,646	2,339	2,364	2,369	2,996	56	現状維持で実施
	青少年対策室	3,577	3,465	3,555	3,645	3,735		
明るい街づくり推進事業	子ども部	982	1,323	1,445	1,602	1,185	54	現状維持で実施
	青少年対策室	4,031	3,632	3,710	3,159	3,237		
青少年団体活動支援事業	子ども部	4,416	6,277	7,922	8,104	8,656	56	現状維持で実施
	青少年対策室	3,397	3,080	3,160	3,240	3,320		
はたちの集い実行委員会交付事業	教育総務部	10,942	10,903	11,619	11,036	11,680	58	現状維持で実施
	生涯学習課	7,900	7,700	7,900	8,100	8,300		
子ども大学かわぐち実行委員会交付事業	教育総務部	0	200	200	200	180	52	効率化して実施
	生涯学習課	0	2,541	2,607	2,673	2,739		
地域学校協働活動推進事業	教育総務部	23,645	28,386	32,891	36,517	41,526	54	拡充して実施
	生涯学習課	9,480	9,240	9,480	9,720	9,960		
川口の元気夢わーく体験事業	学校教育部	0	0	293	415	511	58	現状維持で実施
	指導課	0	0	2,370	2,430	2,490		
未来を拓くふれあいトーク事業	学校教育部	50	50	50	50	55	56	現状維持で実施
	指導課	790	1,540	1,580	1,620	1,660		

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	いじめ防止推進事業				担当	子ども部	
						青少年対策室	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	29	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	いじめ防止対策推進法、川口市いじめを防止するためのまちづくり推進条例					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市内在住、在学の小中高生からのいじめの相談		「川口市いじめから子どもを守る委員会」を設置し、いじめに関する相談に応じ、必要な調査、調整等を行う。	
当該年度の実施内容及び成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・月3回相談日を設け、専門の委員が面接を実施 ・教職員等を対象としたいじめ対応についての勉強会等を開催 ・相談申込の入力フォームを設定し、市内小中学校等へQRコード付きのチラシ及びカードを配付		・学校現場で対応できなかったケースを、学校・教育委員会と連携を図りながら解決等に繋げることができた。 ・市内小中学校の教職員等を対象に専門の委員と意見交換する勉強会等を実施し、いじめ対応への理解を深める場を提供できた。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	チラシやカードを配布した後は市内在学の小中高生からのお問い合わせが増え、早期に相談ができる窓口として認知されてきた。		引き続きいじめの周知カードやチラシを配布して、早期のいじめの解決を行っていく。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	いじめから子どもを守る委員会ケース数				指標・目標値の説明(算定式)	事業の趣旨にそぐわないため、目標値を設定しない。					
	単位	ケース	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		設定なし		設定なし		設定なし		設定なし		設定なし		
	実績値・達成状況	20.00	—	20.00	—	39.00	—					
指標②	名称	いじめ対応についての勉強会等				指標・目標値の説明(算定式)	事業の趣旨にそぐわないため、目標値を設定しない。					
	単位	回	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		設定なし		設定なし		設定なし		設定なし		設定なし		
	実績値・達成状況	3.00	—	3.00	—	3.00	—					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目			川口市一般会計		3 款	3 項	1 目	21 細目	1 細々目	いじめ防止推進事業			
年度			令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
予算額(A)			2,477		2,513		2,970		2,890		2,890		
決算額(B)=(C)+(D)			2,353		2,359		2,393						
財 源 ※	特定財源(C)		0		0		0		0				
	一般財源(D)		2,353		2,359		2,393		2,890				
概算人件費(E)			6,224		6,328		6,552		4,316		4,316		
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.52	0.60	0.52	0.60	0.52	0.60	0.52	0.00	0.52	0.00
総事業費[(A)又は(B)]+(E)			8,577		8,687		8,945		7,206		7,206		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	9 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 ／15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	十分行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など				今後の実施方向性	
52 ／60	いじめから子どもを守る委員会への相談の多くは、学校に相談しても解決に向かわなかったケースである。今後も学校の対応力強化を目的とした教職員等向けの勉強会等実施を継続するとともに、学校・教育委員会との連携を取りやすい体制づくりを推進する。また、面接相談につながるよう、より相談しやすい対応方法等を検討する。				翌年度	現状維持で実施
					翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	中学校夜間学級運営費				担当	教育総務部	
						教育総務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	048-258-1259	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和	元	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景) 生徒の安全・安心を支える、中学校夜間学校の維持、管理。		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果) 「様々な学びのニーズに応え、安全・安心で夢や希望を持って通える学校」の実現。	
	①アクション(当該年度に何を実施したか) 法令に基づき、消防設備、電気設備の点検業務を委託した。		②アウトプット(①を実施した結果・実績) 学びを支える安全・安心な教育環境の確保。	
当該年度の実施内容及び成果	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか) 中学校夜間学校の適切な維持、管理が可能となった。		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題 変化する多様な学びのニーズに応じていくため、学校現場の職員や関係部署と相談しながら、適切な環境を維持する必要がある。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	3 項	1 目	4 細目	4 細々目	中学校夜間学級運営費	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		3,090		2,671		2,972		3,915		3,915
決算額(B)=(C)+(D)		1,900		2,454		2,318				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	1,900		2,454		2,318		3,915		
概算人件費(E)		308		158		729		747		747
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.04	0.00	0.02	0.00	0.09	0.00	0.09 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)			2,208		2,612		3,047		4,662 4,662

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
56 /60	変化する多様なニーズに応じていくため、学校現場の職員や関係部署と相談しながら、適切な環境を維持する必要がある。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	中学校夜間学級運営費				担当	学校教育部	
						庶務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110 18620	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和	元	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の施行に伴い、形式卒業や不登校等により、学び直しを希望する方々に教育の機会を確保するもの。		生徒がのびのび学べる環境づくり	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・芝西中学校陽春分校の運営に係る基礎的経費の支出 ・学校配当予算等、芝西中学校陽春分校の自律的運営に係る経費の支出 ・中学校長会等の各種負担金・助成金の支出 ・学校管理に関わる業務を人材派遣及び委託により実施		中学校夜間学級運営費の事業実施により生徒がのびのび学べる環境づくりを行うとともに、人材派遣業務及び委託業務の実施により業務の効率化、安全性の向上、衛生環境の改善、設備の維持管理を実現した。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	円滑な芝西中学校陽春分校の運営を行い、生徒を進級又は卒業させることができた。		生徒がのびのび学べる環境づくりには学校配当予算の充実が必要であるものの予算上の制約から十分とはいえず依然として厳しい事業運営が続いている一方で、園児や周辺住民にとって安全・安心な環境を維持するためには物価高騰による人材派遣業務および委託業務の増額への対応が必要であり、事業費の上昇が見込まれている。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	3 項	1 目	4 細目	4 細々目	中学校夜間学級運営費	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		29,795		29,478		28,871		29,069		29,069
決算額(B)=(C)+(D)		26,275		24,938		26,948				
財源※	特定財源(C)	4,234		2,586		2,294		2,572		
	一般財源(D)	22,041		22,352		24,654		26,497		
概算人件費(E)		924		1,501		1,782		3,901		3,901
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.12	0.00	0.19	0.00	0.22	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		27,199		26,439		28,730		32,970		32,970

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
54 /60	義務教育を提供する場でありながら、県内の学齢期を超えた年齢の生徒を受け入れるため、毎年の生徒数の把握が困難である。 外国籍の生徒が多く、日本語が堪能でないことから、通常の中学校とは異なる学習形態となっており、継続して研究を行い、改善を図る必要がある。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	中学校夜間学級運営費				担当	学校教育部	
						学務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110(18738,18744)	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和	元	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2- 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	川口市民、埼玉県民のうち、学び直しを希望する15歳以上の 人々に、中学校課程の教育の機会を確保するもの。		学びたい人を可能な限り受け入れ、学び直しの機会を提供する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	川口市立芝西中学校陽春分校(夜間中学)の運営に必要な アシスタントティーチャーへの賃金の支払い等を行い、事業 支援を図った。		令和6年度は37名が入学した。 5月1日時点で、埼玉県内の(川口市を除く)7市から生徒が在籍してい る。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
		令和6年度 10月途中入学者 5名 令和6年度 途中退学者 9名 令和6年度 在籍者 53名 3年生11名中8名が高校進学、1年生3名が高校進学	教育費の応分負担に関して県教育委員会や他市町村との連携を強化 し、よりよい方策を検討していくことや、生徒一人ひとりのニーズに応じ た、教育課程を工夫し、教育活動の充実を図ることが課題である。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称					指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別									
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	実績値・達成状況										
指標②	名称					指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別									
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	3 項	1 目	4 細目	9 細々目	中学校夜間学級運営費	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		2,639		2,479		2,891		6,730		6,730
決算額(B)=(C)+(D)		1,304		1,073		1,185				
財 源 ※	特定財源(C)	0		311		324		2,675		
	一般財源(D)	1,304		762		861		4,055		
概算人件費(E)		770		790		810		830		830
		従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		2,074		1,863		1,995		7,560		7,560

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必 要 性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有 効 性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効 率 性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 ／15	公 平 性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
52 ／60	入学を希望する方が増え、在籍生徒数が増えてきた。 県内唯一の夜間中学であり、今後も県教育委員会と連携し事業を進めていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	生徒指導支援事業				担当	学校教育部	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	7	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市立幼稚園及び小・中・高等学校に在籍する教職員に対し、生徒指導に必要な知識や技能の習得を促進し、学校現場を支援するもの。また、それによりいじめ等の生徒指導上の諸問題の未然防止と解決を図るもの。		生徒指導を通し、児童生徒等が自らの課題や状況を理解し、主体的に行動できるようになること。また、自己肯定感を高め、他者と協力しながら、自らの行動を決断したり実行したりすることができるようになること。	
当該年度の実施内容及び成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	①6月と1月にいじめ問題対策協議会を開催 ②7月(オンライン)と12月にいじめゼロサミットを開催 ③生徒指導研修会及びいじめ対応教員研修会を実施		①大学教授、人権擁護委員、保護司、民生委員、PTA連合会代表、警察、小児科医、幼稚園協会代表、児童相談所、子ども部等の関係機関との協議を実施し、提言を发出 ②参加者 1回目(オンライン):小52人・中27人/2回目:小51人・中27人 ③生徒指導研修会 1回開催/いじめ対応教員研修会 2回開催	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	いじめ問題をはじめとする諸問題の解決に向け、意識や意欲の向上を図ることができた。また、生徒指導研修会やいじめ対応教員研修会では、事例を活用する等の工夫をしたことにより、生徒指導に対する指導力の向上を図ることができた。		いじめの認知感が向上している中、今後は未然防止、初期対応に対してより意識を向けていく必要がある。また、教職員が法的な知識を身に付けることや、自校の課題に応じた取り組みを実施することにより、各学校における未然防止の一層の意識向上を図る必要がある。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称					指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別									
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	実績値・達成状況										
指標②	名称					指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別									
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	4 細目	1 細々目	生徒指導支援事業			
年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
予算額(A)	3,076	1,722		2,321		2,558		2,576		
決算額(B)=(C)+(D)	2,250	940		1,121						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	2,250		940		1,121		2,558		
概算人件費(E)		4,620		4,740		4,860		4,980		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00
			0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	6,870	5,680		5,981		7,538		7,556		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
56 /60	本市の実態に応じて研修の内容や講師の選定を行う。また、研修内容に本市の事例を活用するなどし、自分事として捉えながら研修に臨むことができるよう工夫を行う。 いじめの未然防止に関する取り組みには課題が残るため、何故いじめがなくなるのかという視点で、学校の対応の更なる充実を図っていく必要がある。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	学校教育研修事業				担当	学校教育部	
						指導課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 44 年度 ～ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	川口市教育研修生志願者募集要項

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)	事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市立幼稚園、小・中・高等学校に在籍する教員及び管理職を対象に、学校経営及び運営や各専門分野に関する研修を実施することにより、教員としての資質及び指導力の向上を図るとともに学校教育の充実を図るもの。	社会の変化に対応し、児童生徒、保護者、地域の実態を捉え、自校の教育活動を職員が一丸となって行える各学校の教育力の向上。不易と流行を的確に捉え指導力の高い教職員により質の高い学校教育が行われている状態。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)	②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	①学校経営研修会(校長対象)、人権教育管理職研修会(教頭対象)、教頭マネジメント研修会(教頭、副校長対象) ② GIGAスクール推進活用教員研修③高等学校教職員研修④ 日本語指導研修⑤5ラウンドシステム研修会、外国語活動・外国語科学力向上研修会⑥特別支援教育理解研修⑦ライフスキルかわぐち研修会	①校長対象オンライン(参加者82人)、人権・オンライン(教頭対象/87人)、マネジメント・オンライン(79人) ②小・中学校教員対象(2回/160人)③参集型(4回/241人)④受講歴に応じ三段階(11回/119名)⑤ 中学校英語教員各1名以上/2回、小学校各校1名以上/1回⑥小中学校職員(6回/40名)⑦小中学校79名	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)	①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	①管理職のマネジメント能力や学校経営・学校運営の充実・発展を図ることができた。 ②～⑦各分野の知識と理解を深めることができた。	教職員の働き方改革が求められている中、研修の費用対効果や必要性・実用性が求められる。常に新しい社会背景に伴う教育現場のニーズに応じた研修を提供し、研修を通して、職員の指導力向上に留まらず、各学校の教育力の向上が図られる研修を提供をし続ける必要がある。そのため高度な知識を持つ講師派遣や適切なテーマの選定が求められる。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	教育研修生対象研修参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	指標:研修生として採用される教員の3種の研修会の合計参加者数 目標値:効率的かつ充実した研修となるための人数を踏まえて設定する研修生の3種の研修会における合計募集人数				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
		85.00		85.00		85.00		85.00		85.00
指標②	実績値・達成状況	97.00	達成	85.00	達成	91.00	達成			
	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
指標③	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	4 細目	3 細々目	学校教育研修事業			
年度	令和4年度	令和5年度			令和6年度		令和7年度		令和8年度	
予算額(A)	1,841	1,445			1,422		1,343		1,169	
決算額(B)=(C)+(D)	1,203	837			962					
財源※	特定財源(C)	0	0			0	0			
	一般財源(D)	1,203	837			962	1,343			
概算人件費(E)		13,090	18,960			16,200	16,600		16,600	
従事職員人数(人)	常勤	1.70	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00
	再任用									
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		14,293	19,797			17,162	17,943		17,769	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
56 ／60	オンライン等コストをかけない方法で実施可能な研修もある一方、「最新の情報」、「同じ課題を協議して深める」、「専門的知見を得る」といったことが必要な研修は参集型でコストをかけなければ、充実した研修にはならないと考える。社会情勢を踏まえた指導者・テーマの選定に幅を持たせるため、予算は現状維持を希望する。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	小学校ICT運用事業				担当	学校教育部	
						庶務課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-271-9414 18630	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	22	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2- 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	学校教育の情報化の推進に関する法律 等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託	
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)		
	・文部科学省が提唱した「GIGAスクール構想」に基づく、小学校の学習ICT環境の整備 ・教職員の負担軽減を目的とした校務ICT環境の整備		文部科学省が方向性を示している「次世代の校務DX」に基づく、校務及び学習におけるICT環境の整備		
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)		
	・校務支援システムの保守・運用 ・「GIGAスクール構想」に基づく、学習ICT環境の保守・運用 ・「GIGAスクール構想第2期」における学習用端末の更新		・校務支援システムの安定的な稼働 ・学習ICT環境の安定的な稼働 ・1学年分の端末更新		
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題		
	・教職員の負担軽減 ・個別最適な学びを実現するための学習ICT環境の継続		校務支援システムについては、都道府県単位での共同調達を推進する動きも見られることから、国及び埼玉県の動向を注視し、校務及び学習ICT環境の整備方針を決める必要がある。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	GIGAスクール端末の更新					指標・目標値の説明(算定式)		更新済学年(当該年度までの累積値)								
	単位	学年		指標の種別	結果												
	目標値	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			
		0.00			0.00			1.00			3.00			5.00			
	実績値・達成状況	0.00			0.00			1.00		達成							
指標②	名称						指標・目標値の説明(算定式)										
	単位			指標の種別													
	目標値	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			
	実績値・達成状況																

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	2 項	1 目	3 細目	3 細々目	小学校ICT運用事業				
年度	令和4年度	令和5年度			令和6年度		令和7年度	令和8年度			
予算額(A)	554,599	908,791			940,645		1,512,556	1,490,271			
決算額(B)=(C)+(D)	551,288	908,143			915,404						
財源※	特定財源(C)	210,131			323,985		712,823				
	一般財源(D)	341,157			584,158		799,733				
概算人件費(E)		19,635			20,145		20,655	21,165		21,165	
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.55	0.00	2.55	0.00	2.55	0.00	2.60	0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)	570,923			928,288		936,059	1,533,721		1,511,436	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
56 /60	情報システムの運用にあたっては、学校・関係各課・事業者と情報共有を行い、課題解決に向けた協力して進めていく必要がある。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	中学校ICT運用事業				担当	学校教育部	
						庶務課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-271-9414 18630	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	22	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2- 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	学校教育の情報化の推進に関する法律 等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	・文部科学省が提唱した「GIGAスクール構想」に基づく、中学校の学習ICT環境の整備 ・教職員の負担軽減を目的とした校務ICT環境の整備		文部科学省が方向性を示している「次世代の校務DX」に基づく、校務及び学習におけるICT環境の整備	
当該年度の実施内容及び成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・校務支援システムの保守・運用 ・「GIGAスクール構想」に基づく、学習ICT環境の保守・運用 ・「GIGAスクール構想第2期」における学習用端末の更新		・校務支援システムの安定的な稼働 ・学習ICT環境の安定的な稼働 ・1学年分の端末更新	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・教職員の負担軽減 ・個別最適な学びを実現するための学習ICT環境の継続		校務支援システムについては、都道府県単位での共同調達を推進する動きも見られることから、国及び埼玉県の動向を注視し、校務及び学習ICT環境の整備方針を決める必要がある。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	GIGAスクール端末の更新			指標・目標値の説明(算定式)	更新済学年(当該年度までの累積値)				
	単位	学年	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況	0.00		0.00		1.00	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	3 項	1 目	4 細目	3 細々目	中学校ICT運用事業			
年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
予算額(A)	337,113	674,603		685,811		789,249		857,346		
決算額(B)=(C)+(D)	336,887	671,629		669,308						
財源※	特定財源(C)	210,094	311,795		331,562		343,052			
	一般財源(D)	126,793	359,834		337,746		446,197			
概算人件費(E)		10,395	10,665		10,935		11,952		11,952	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.35	0.00	1.35	0.00	1.40	0.00	1.40	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	347,282	682,294		680,243		801,201		869,298		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
56 /60	情報システムの運用にあたっては、学校・関係各課・事業者と情報共有を行い、課題解決に向け協力して進めていく必要がある。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	教職員安全衛生管理費				担当	学校教育部	
						学務課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110(18734)	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間		年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上				
根拠法令等	労働安全衛生法				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの		実施形態	一部委託
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	学校現場における教職員の安全および健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進すること。		学校現場における教職員の安全および健康の確保を図り、快適で働きやすい職場環境の形成を促進することで、教職員の病休・休職が生じにくい環境づくりに繋げること。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・安全衛生委員会の開催(8・11・2月) ・メンタルヘルスカウンセラーの派遣(433回/年) ・産業医の派遣(217回/年) ・教職員対象を対象としたストレスチェックの実施(6月)		・安全衛生委員会等により、市立学校における労働安全衛生に係る情報共有及び課題について、市教委と学校の間で共通認識を深めた。 ・メンタルヘルスカウンセラーや産業医の派遣により、予防的な安全衛生に努めた。 ・ストレスチェックの結果から、職員には自身のメンタルヘルス状況の把握を、所属長には自身の所属の傾向把握を促した。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・安全衛生委員会に参加した担当者から各校の職員へ、川口市立学校における労働安全衛生に係る情報共有および課題等の落とし込みを行った。 ・ストレスチェックの分析結果を基にした管理職のラインケアに加え、メンタルヘルスカウンセラー・産業医・ストレスチェック等を活用した個々の職員によるセルフケアも推進した。		・各事業により、自身や職員・職場内での気づきをベースとしたケアの流れはできている。今後、川口市学校教職員長時間労働健康相談の制度を活用し、具体的な数字をもとにした予防的安全衛生の推進により、事業目的の達成度を高めていきたい。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	ストレスチェック診断			指標・目標値の説明(算定式)	受検者／対象者			
	単位	%	指標の種別	結果					
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	実績値・達成状況	99.20	達成	99.40	達成	99.70	達成		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	1 項	2 目	1 細目	6 細々目	教職員安全衛生管理費	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		18,812		19,492		19,916		19,959		20,468
決算額(B)=(C)+(D)		18,365		18,301		19,363				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	18,365		18,301		19,363		19,959		
概算人件費(E)		3,850		3,950		4,050		4,150		4,150
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50
										0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		22,215		22,251		23,413		24,109		24,618

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	どちらともいえない	11 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
48 ／60	精神疾患による休職者は増加傾向にあり、各校において労働安全衛生面の改善およびメンタルヘルスケアの取組が必要である。令和7年度以降も、適切な委員会運営およびメンタルヘルスカウンセラー・産業医の有効活用について、継続に取り組んでいく。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	部活動指導員配置事業				担当	学校教育部	
						指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	28	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	学校教育法施行規則、川口市部活動指導員設置要綱、川口市部活動指導員実施要領					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	教育に対する理解及び地域の専門的指導力を備えた指導者を顧問として配置することで、学校部活動を充実・活性化させるとともに、教員の負担を軽減させる。		専門的な知識や指導力に加え、生徒の成長をサポートするコーチングスキルや、安全管理能力を備えた指導者により、生徒の自主性・自律性を尊重し、安全で効果的な部活動の運営が行われている状態。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	希望校に対し部活動指導員を配置。 部活動指導員は、教員と連携のうえ、顧問として部活動の指導を行うほか、大会や練習試合への生徒の引率及び監督を行なった。 また、教職員と連携のうえ、安全指導及び生活指導等も行った。		・配置期間 令和6年4月9日から令和7年3月31日まで ・配置状況 15校に25名配置(運動部20名、文化部5名) 【配置部活動】 剣道、ダンス、吹奏楽、卓球、水泳、バレーボール、陸上、ソフトボール、バスケットボール、新体操、体操、ソフトテニス、合唱、音楽部、野球、ハンドボール	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・専門性の高い指導者の任用によって、部活動指導の充実を図ることができた。 ・教員の負担軽減による教員資質の向上につながった。		各市立中学校に設置されている部活動の数と登録及び活動している部活動指導員の人数を比較すると、部活動指導員の数が不足している状況がある。今後、部活動の地域展開も踏まえると、指導者の人材確保が課題である。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	1 項	3 目	3 細目	14 細々目	部活動指導員配置事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		10,656		11,198		18,458		19,249		19,625
決算額(B)=(C)+(D)		10,047		9,997		15,665				
財源※	特定財源(C)	5,692		5,956		8,006		10,636		
	一般財源(D)	4,355		4,041		7,659		8,613		
概算人件費(E)		3,080		3,160		3,240		3,320		3,320
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)	13,127		13,157		18,905		22,569		22,945

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
52 /60	部活動地域展開について、令和9年度の9月から、各市立中学校における週休日の部活動を、地域クラブ等の団体が運営することを目指している。このことも踏まえ、部活動指導員の必要性は、より高まっていると言える。今後も学校からのニーズに答えながら、専門的指導力等を備えた部活動指導員の人材確保と適正配置を行っていく。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	教職員研修事業				担当	学校教育部	
						指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	30	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	川口市立小・中学校中堅教諭等資質向上研修実施要項					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	中核市への移行に伴い、県から委譲を受け、小中学校県費負担教職員に対し研修を実施するもの。		教職員の資質が十分に高まり、市民の信託に応える魅力ある教職員による充実した学校教育が行われている状態。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	県費負担教職員等のうち、初任者研修、ジャンプ・アップ研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修(10年経験者研修)、20年経験者研修を本市独自で企画・運営を行った。その他の県主催研修については、関係各課と委託契約を結び、実施した。		①初任者研修(対象者数:104名) ②ジャンプ・アップ研修(対象者数:116名) ③5年経験者研修(対象者数:76名) ④中堅教諭等資質向上研修(対象者数:79名) ⑤幼・小・中・高等学校(園)20年経験者研修(対象者数:43名) ⑥県主催研修への委託 計94本	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・本市の実態に即した実践的な研修プログラムを企画・実施し、教職員の指導力の向上を図ることができた。 ・市内の教員を指導者として、指導的立場となる教員の育成にもつなげることができた。 ・研修を通して市内の教員同士のつながりや連携が密になり、教職員の指導力向上や学校の教育力向上につながった。		教職員の働き方改革が求められる中、研修の費用対効果や内容の実用性が問われる。教育現場の新たなニーズに応じた研修を実施するとともに、教職員の指導力向上や各学校の教育力向上につながる研修を提供をし続ける必要があり、そのためには絶え間ない研修内容の改善と高度な知識を持つ講師の人材確保、120人規模の会場確保等が課題である。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	4 細目	2 細々目	教職員研修事業			
年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
予算額(A)	10,936	7,449		7,559		7,559		6,533		
決算額(B)=(C)+(D)	6,549	5,043		4,302						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	6,549		5,043		4,302		7,559		
概算人件費(E)	16,170	16,590		24,300		24,900		24,900		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.10	0.00	3.00	0.00	3.00	0.00	3.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	22,719	21,633		28,602		32,459		31,433		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
56 ／60	オンライン等による研修も実施する一方、参集型だからこそ深められる学びや、対面の協議等により作られる教職員同士の効果的なつながりもあることから、参集型研修も並行して実施していく。変化の激しい社会情勢を踏まえた指導者・研修内容の選定に幅を持たせるとともに、よりよい研修環境を提供するため、予算は現状維持を希望する。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	教育相談員活用事業				担当	学校教育部	
						指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	61	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2- 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	教育研究所教育相談員設置要綱、教育研究所カウンセラー設置要綱、川口市教育相談支援員設置要綱等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市内在住の幼児、児童生徒及び保護者並びに市立幼稚園・小中学校に在籍する教職員に対し、専門的な見地から適切な指導・助言や支援を行うことにより、円滑な相談・連携体制を構築し教育上の諸問題の解決を図るもの。		児童生徒や保護者が抱える様々な課題や悩みを早期に発見し、適切な支援を行うことで、より良い学校生活や社会生活を送れるようにすること。また、教職員と共に指導方針について考え、方向性を整理すること。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	①教育相談員、教育カウンセラーによる教育相談・カウンセリング ②精神科医による医療相談 ③特別支援教育アドバイザーによる就学相談、就学に係る検査等 ④スクールソーシャルワーカーによる相談支援、関係機関とのネットワーク構築 ⑤教育相談支援員による相談・援助(各中学校に配置)		①教育相談員13人配置・相談件数6,112件／教育カウンセラー7人配置・相談件数2,461件 ②月1回×12か月(12回)実施・相談件数47件 ③7人配置・活動回数258回 ④9人配置(SV1人含む)・相談件数8,473件 ⑤すこやか／サポート相談員各27人配置・相談件数延べ43,777件	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	①②③児童生徒の諸問題解消及び保護者、教職員への相談・支援につなげることができた。また、一人ひとりの課題に応じた適切な支援につなげることができた。 ④⑤不登校、いじめ、家庭環境問題の未然防止や早期発見、連携機関へのスムーズな対応につなげることができた。		教育上の諸問題は増加傾向にあり、内容も多様化・複雑化している。今後、体制の一層の拡充が望まれる一方、人材及び財源の確保が課題である。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	1 項	4 目	2 細目	1 細々目	教育相談員活用事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		116,425		128,410		134,254		159,209		169,089
決算額(B)=(C)+(D)		114,817		124,754		130,991				
財源※	特定財源(C)	20,431		22,288		24,153		34,249		
	一般財源(D)	94,386		102,466		106,838		124,960		
概算人件費(E)		15,400		15,800		16,200		16,600		16,600
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)	130,217		140,554		147,191		175,809		185,689

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
52 ／60	当面は相談員及び相談業務の質の向上を目指し、SV(スーパーヴィジョン)会議やスキルアップ研修会を行うなど、効果的かつ効率的な相談体制の構築を図っていく。	翌年度	拡充して実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	不登校児童生徒支援事業				担当	学校教育部	
						指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	4	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2- 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等	適応指導教室実施要項、保護者と共に不登校を考える会開催要項、訪問相談員活用事業実施要綱・要領・要項					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営	
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)		
	登校はできないが、自己改善(適応力の向上等)を図りたいと考えている児童生徒に対し、集団への適応能力を養い、自信や自立心を持たせるなど、社会的自立に向けての支援を行うもの。		不登校児童生徒が、学校内外において、個に応じた適切な支援を受けられるようにすること。また、当該児童生徒が社会において自己実現ができるよう、資質・能力・態度を形成すること。		
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)		
	①教育支援センターにおける教育相談や生活への適応支援 ②保護者とともに不登校を考える会の開催 ③訪問相談員による訪問相談・支援の実施 ④校内教育支援センター「ほっとルーム」の設置促進とほっとルーム支援員の配置 ⑤学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置準備		①教育支援センター通室者数35人(小14人・中21人) ②3回開催 参加者数155人(①39人②61人③55人) ③延べ活動件数 204回 ④モデル校16校で「ほっとルーム」設置／支援員を7校に7人配置 ⑤先進市視察(白石市・大阪市)、学びの多様化学校準備部会設置会議を17回開催 ほか		
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題		
	①教育支援センター通室者35人中24人が学校復帰につながった(復帰率68.57%) ②市内の不登校児童生徒数が前年度比で99名減少 ③対象児童生徒のうち中学3年生3名が高校(通信制含む)に進学 ④児童生徒の居場所を作ることで、少しずつ教室復帰を果たす児童生徒が見られるようになった		ニーズの多様化に伴い、地域教育支援センターの設置、「ほっとルーム」の拡充及び学びの多様化学校の設置・運営など、事業拡充や新たな施策検討が必要となっている。 直近では、教育研究所芝園分室のSKIPシティ移転に伴い、市内の学校を借用して地域教育支援センターを設置することとなったが、施設設備を適切に整える必要がある。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒の割合			指標・目標値の説明(算定式)	指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒／不登校児童生徒数				
	単位	%	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況	21.66	未達成	18.18	未達成	23.95	未達成			
指標②	名称	適応指導教室通級者の学校復帰率			指標・目標値の説明(算定式)	適応指導教室通級者数のうち学校に復帰した人数／適応指導教室に通級する児童生徒数				
	単位	%	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況	42.86	未達成	16.00	未達成	68.57	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	1 項	4 目	2 細目	3 細々目	不登校児童生徒支援事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		1,100		1,108		7,687		25,614		25,614
決算額(B)=(C)+(D)		810		918		6,607				
財源※	特定財源(C)	0		0		124		2,605		
	一般財源(D)	810		918		6,483		23,009		
概算人件費(E)		3,850		3,950		12,150		12,450		12,450
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	1.00	0.00	1.50	0.00	1.50
										0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		4,660		4,868		18,757		38,064		38,064

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
52 ／60	地域教育支援センターについては、各校の教室設備を活用しながら、状況に応じて適切な整備・運営を進める。また、「ほっとルーム」において、効率的・効果的で持続可能な運営を進めるため、人員配置を含め適切な予算措置を講じる。		翌年度	拡充して実施
			翌々年度	拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	令和6年度
--------	-------

事業名称	学校教育研究支援事業			担当	学校教育部	
					指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間		年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2- 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上				
根拠法令等	研究委嘱に関する要綱、川口市課題研究実施要綱				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部補助金・負担金
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)	事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市立幼稚園、小・中・高等学校に在籍する教職員を対象とし、特色ある学校づくりを推進することにより、各校教職員の指導力を高めるとともに、教育課題について研究を深め、本市の学校教育の充実を図るもの。	学校が研究テーマに沿って自主性、自立性を発揮して、様々な創意工夫をしながら特色ある学校づくりを積極的に推進し、各校の教職員の指導力が十分に高まった状態。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)	②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	①希望校に対し研究委嘱を行ない、研究発表会に大学教授等の学識経験者を派遣 ②14の教科・領域部門について、各校4名程度の研究員を委嘱し、テーマを設定して研究を実施 ③教育研究会等、各部門別研究組織への運営経費等の助成 ④小・中学校の教職員を対象とした教育講演会の開催	①令和6年度研究委嘱校 小学校9校・中学校3校・幼稚園2園／計14校(園) ②課題研究本発表会(令和7年2月14日)を実施。また、研究紀要を発行した。 ④教育講演会「川口市の子どもたちの『非認知能力』を育てるために」参加者:市内会員数1205名・保護者12名／合計1217名	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)	①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
各校がテーマに沿って研究を推進し、日々の学習指導に活かすとともに、教職員の指導力向上及び本市の学校教育の充実が図られた。 また、課題研究における結果は、教科領域の指針を示すものとして本市の教育の発展に活かされている。		課題研究については、令和7年度から形態を変更し、より児童生徒及び教職員に研究の成果を還元できるものとする。 また、校種を超えた教職員同士のネットワークが構築され、連携体制が整いつつあるが、今後は、地区間の教職員同士のネットワーク構築が必要である。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	市教育研究会各研究部授業公開回数			指標・目標値の説明(算定式)	指標:市教育研究会の各研究部が実施する授業公開の合計回数。 目標値:市教育研究会の研究部門数×各部1回実施。				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況	0.00	未達成	12.00	未達成	11.00	未達成			
指標②	名称	教育講演会聴講者数			指標・目標値の説明(算定式)	指標:市教育研究会会員の聴講者数 目標値:市教育研究会会員数×50%				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況	0.00	未達成	1,199.00	達成	1,205.00	達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計	10 款	1 項	4 目	3 細目	1 細々目	学校教育研究支援事業	
年度		令和4年度	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		4,159	4,256		3,457		3,304		3,801
決算額(B)=(C)+(D)		3,277	3,520		2,826				
財源※	特定財源(C)	0	0		0		0		
	一般財源(D)	3,277	3,520		2,826		3,304		
概算人件費(E)		13,090	13,430		13,770		14,110		14,110
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.70	0.00	1.70	0.00	1.70	0.00
				1.70	0.00	1.70	0.00	1.70	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		16,367	16,950		16,596		17,414		17,911

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
52 ／60	今後も本市の教育ニーズ、各学校の教育課題を的確に捉えたテーマを選定の上、研究委嘱を実施する。また、配当予算については、費用対効果を高めるため、用途に適した金額の配分を行い、研究成果の共有を図るなど、よりよい教育につなげていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	高等学校ICT運用事業				担当	学校教育部 川口市立高等学校	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-483-5917	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	22	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託	
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)		
	川口市立高等学校における、ICTを活用した教育活動の推進及び教職員の事務負担の軽減を図ることを目的に、校務用PC、学習用PC等のICT環境の整備・運用を行うもの。		教育活動の推進及び教職員の事務負担の軽減		
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)		
	・学習用ネットワークシステムのリース ・校務支援・庶務事務システムのリース ・図書館用システムのリース ・授業料管理システムのリース ・GIGA端末の運用 ・校内コンピュータ室の運用 等		・教職員の事務効率をあげ、負担の軽減を図ることができた。 ・ICTに対応した学習環境を整えることで、新たな授業を展開することができ、時代の先端を見据えた人材の育成を図ることができた。		
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題		
	・教職員の事務効率をあげ、負担の軽減を図ることができた。 ・ICTに対応した学習環境を整えることで、新たな授業を展開することができ、時代の先端を見据えた人材の育成を図ることができた。		今後の整備計画と運用管理の検討		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	4 項	1 目	2 細目	5 細々目	高等学校ICT運用事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		103,228		80,968		79,344		76,425		76,425
決算額(B)=(C)+(D)		102,950		80,636		78,631				
財源※	特定財源(C)	25,396		25,903		25,634		25,918		
	一般財源(D)	77,554		54,733		52,997		50,507		
概算人件費(E)		1,925		1,975		2,025		2,075		2,075
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.25	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00	0.25 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)		104,875		82,611		80,656		78,500	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
54 /60	ICT機器などはリースでの導入を引き続き進めるとともに、更新周期の把握と予算の平準化を図るため、計画的な更新を行っていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	青少年センター等施設管理費				担当	子ども部	
						青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	50	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等	川口市立青少年センター設置及び管理条例					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託	
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)		
	青少年の活動に資する施設の維持・管理を行うもの。		青少年の活動に資する施設の維持・管理		
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)		
	青少年センター8ヶ所、新郷自然の森青少年野外活動広場等の施設の維持・管理、神根青少年野外活動広場の閉所		年間を通して滞りなく利用者に施設の貸出を実施出来た。神根青少年野外活動広場については令和6年12月をもって問題なく閉所した。		
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題		
	利用対象者については変更は生じていない。		川口市公共施設等総合管理計画において、建築後40年を超えた青少年センターは、順次廃止する方針を決定しているため、利用状況等を勘案し町会等の利用者と密接に連携し、施設のあり方を検討していく。神根青少年野外活動広場の代替地について検討していく。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	青少年センター施設年間利用者数			指標・目標値の説明(算定式)	当該施設の事業は施設利用者に活動の場を提供するものであり、目標値を設定することは事業の趣旨にそぐわないため。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度	令和5年度	令和6年度						
		設定なし	設定なし	設定なし						
	実績値・達成状況	13,649.00	—	15,469.00	—					
指標②	名称	神根野外活動広場・新郷自然の森利用件数			指標・目標値の説明(算定式)	当該施設の事業は施設利用者に活動の場を提供するものであり、目標値を設定することは事業の趣旨にそぐわないため。				
	単位	件	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度	令和5年度	令和6年度						
		設定なし	設定なし	設定なし						
	実績値・達成状況	44.00	—	52.00	—					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		3 款	3 項	13 目	2 細目	1 細々目	青少年センター等施設管理費	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		6,696		6,601		7,208		7,127		7,127
決算額(B)=(C)+(D)		5,413		4,651		5,992				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	5,413		4,651		5,992		7,127		
概算人件費(E)		5,313		5,451		5,589		5,727		5,727
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.69	0.00	0.69	0.00	0.69	0.00	0.69 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)	10,726		10,102		11,581		12,854		12,854

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	どちらともいえない	7 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	11 ／15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民のニーズ	不明			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	低かった	11 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
42 ／60	川口市公共施設等総合管理計画において、建築後40年を超えた青少年センターは、順次廃止する方針を決定しているため、引き続き、閉所に向けて地元町会との綿密な調整をしていく。神根青少年野外活動広場の代替地について手続きを進めていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	青少年体験活動事業				担当	子ども部	
						青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	14	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	青少年が生きる力を身に付け、将来、自立した社会生活が営めるよう、野外や地域における共同生活等の体験事業を実施するもの。		子どもたちは生きる力を養い、社会の中で必要な自立心と協調性、問題解決力を身につける成果が得られる。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・子ども自然体験村(計40名) テント設営、火おこし体験、オリエンテーリング等 ・通学合宿(定員20名×2回) 参加者の公民館における共同生活(自炊・入浴・清掃等)、 地域の方々との交流		・子ども自然体験村 自然の中での野外活動を通して、自主性、協調性が育まれた。 ・通学合宿 地域との交流、自主性が生まれた。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・子ども自然体験村 子どもたちが自己の役割を認識し、自主的に行動する力を 身につけるとともに、協力し合う姿勢が育まれた。 ・通学合宿 同生活を通じ自主性が育まれ、地域の方々との交流を通じ 地域社会への愛着や支え合いの大切さを学ぶことができた。		「子ども自然体験村」や「通学合宿」により、めざす姿に向けて一定の 進展が見られるものの、生活指導者・キャンプリーダーの育成・確保、 地域のさらなる連携強化といった課題を解決することで、より大きな成 果が期待できる。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	子ども自然体験村参加者の「心の成長度」			指標・目標値の説明(算定式)	参加後、「生活面や精神面、家族の接し方等、お子さんに成長が見られましたか。」という保護者へのアンケートについて”成長した”、”やや成長した”と回答した割合。					
	単位	%	指標の種別	成果							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	80.00		80.00		80.00		80.00		0.00		
実績値・達成状況		100.00	達成	100.00	達成	77.00	未達成				
指標②	名称	通学合宿参加者の「心の成長度」			指標・目標値の説明(算定式)	参加後、「生活面や精神面、家族の接し方等、お子さんに成長が見られましたか。」という保護者へのアンケートについて”成長した”、”やや成長した”と回答した割合。					
	単位	%	指標の種別	成果							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	0.00		70.00		70.00		70.00		0.00		
実績値・達成状況		0.00	—	100.00	達成	65.00	未達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		3 款	3 項	13 目	3 細目	1 細々目	青少年体験活動事業		
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
予算額(A)		1,457		2,336		2,741		2,663		2,663	
決算額(B)=(C)+(D)		277		1,459		2,407					
財源※	特定財源(C)	50		521		561		520			
	一般財源(D)	227		938		1,846		2,143			
概算人件費(E)		3,850		3,950		4,050		4,150		4,150	
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)	4,127		5,409		6,457		6,813		6,813	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	検討した			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
52 /60	事業の実施については現行の枠組みの中において、創意工夫のもと内容の充実化を図る。将来的には各青少年団体が連携を図り、自主的に実施できる事業へとも繋げていきたい。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	親子ふれあい事業				担当	子ども部	
						青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	35	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	・七つの祝いにおいては、来春就学する前の子どもの健やかな成長を祝う ・親と子の音楽会においては、親子が音楽を通しふれあうことにより、青少年の健全育成に望ましい家庭環境の促進を図る		親と子が共通した話題の中から信頼関係が醸成され、青少年の情操教育と望ましい家庭環境の増進を図る。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・10月14日(月・祝)、グリーンセンターにおいて、「川口市七つの祝い」を開催した。 ・令和7年2月16日(日)に南平文化会館において、「親と子の音楽会」を開催した。		・「川口市七つの祝い」は対象児童984人を含む3,445人が来場した。 ・「川口市親と子の音楽会」は306人が来場した。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	親子・家族での参加を促すことにより、親子の絆を深め、子どもの情緒を養い、健全な成長に望ましい家庭環境づくりの一助となった。		・七つの祝いは、天候などによって参加者数に影響を及ぼすなど安定した運営について外的要因が多く、また参加者数が対象者の2割弱に留まっていることから費用対効果を考え、内容の見直しの検討が必要。 ・親と子の音楽会は、人気事業であるが設営等にかかる費用など会場に参加者数等が大きく左右されることから、内容の検討が必要。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	七つの祝い対象者参加者数				指標・目標値の説明(算定式)	過去の実績数値を考慮し設定					
	単位	人	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		800.00		800.00		800.00		800.00		0.00		
	実績値・達成状況	737.00	未達成	198.00	未達成	984.00	達成					
指標②	名称	親と子の音楽会参加者数				指標・目標値の説明(算定式)	会場収容人数の9割と設定					
	単位	人	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		540.00		540.00		486.00		486.00		0.00		
	実績値・達成状況	612.00	達成	721.00	達成	306.00	未達成					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		3 款	3 項	13 目	3 細目	2 細々目	親子ふれあい事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		2,555		2,859		2,692		2,996		2,996
決算額(B)=(C)+(D)		2,339		2,364		2,369				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	2,339		2,364		2,369		2,996		
概算人件費(E)		3,465		3,555		3,645		3,735		3,735
		従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		5,804		5,919		6,014		6,731		6,731

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
56 /60	七つの祝いは、参加対象者子育て世代のニーズ等を研究し、対象者が参加したくなるような事業内容を検討する。親と子の音楽会は来場者アンケートの結果から、満足度の高さを計れるが、長年の一様の内容であることから、より楽しんでもらえるプログラムを検討する。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	明るい街づくり推進事業				担当	子ども部	
						青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	33	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	・関係者への青少年健全育成の意識の高揚 ・青少年が自らの存在や社会との関わりを認識 ・青少年に対する市民の理解を深める		川口市青少年保護育成本部が組織されてから66年を迎えるにあたり、市内青少年育成委員・青少年指導者等、明るい街づくり運動推進の関係者が一堂に会し、この運動の一層の進展を期する。	
当該年度の実施内容及び成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・3月8日(土)川口市市民ホールフレンディアにおいて「明るい街づくり運動推進大会」を開催。 ・青少年育成団体表彰、作文コンクール表彰および作文コンクール朗読の実施。そのほか記念講演を実施した。		青少年健全育成、明るい街づくりに貢献のあった方を表彰することで、市民の地域活動に対する理解が深まり、意識の向上が図れた。小中学生には作文コンクールを通して社会の中で自分の存在意義を認識するきっかけを作ることができた。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	「明るい街づくり運動推進大会」を通じて、地域活動や青少年育成に関心を寄せる市民が増加し、地域活動の活性化が促進された。		「明るい街づくり運動推進大会」を通じて、地域活動や青少年育成に関心を寄せる市民が増加し、地域活動の活性化が促進された一方、参加者の継続的な関与を促す取り組みが今後のさらなる課題と考えている。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	明るい街づくり運動推進大会参加者数				指標・目標値の説明(算定式)	会場の収容人数の9割と設定					
	単位	人	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		300.00		400.00		400.00		400.00		0.00		
実績値・達成状況	270.00	未達成	312.00	未達成	404.00	達成						
指標②	名称	青少年健全育成作文コンクール応募数				指標・目標値の説明(算定式)	過去の応募数を基に平均値を算出し設定					
	単位	点	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		2,000.00		2,000.00		2,000.00		2,000.00		0.00		
実績値・達成状況	763.00	未達成	1,022.00	未達成	377.00	未達成						

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		3 款	3 項	13 目	3 細目	3 細々目	明るい街づくり推進事業		
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
予算額(A)		1,642		1,630		1,868		1,185		1,185	
決算額(B)=(C)+(D)		1,323		1,445		1,602					
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0			
	一般財源(D)	1,323		1,445		1,602		1,185			
概算人件費(E)		3,632		3,710		3,159		3,237		3,237	
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.39	0.17	0.39	0.17	0.39	0.00	0.39	0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)	4,955		5,155		4,761		4,422		4,422	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
54 /60	「明るい街づくり運動推進大会」においては市民の地域活動に対する理解が深めることができた。また、作文コンクールについては、学校ごとの取組に差があるため、多くの学校に実施してもらえるよう周知を強化する必要がある。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	青少年団体活動支援事業				担当	子ども部
						青少年対策室
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	49	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)	事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	青少年の健全育成のための事業の実施や、体験活動の機会を提供する青少年団体等の活動を支援する。	リーダー養成による青少年活動が活性化され、青少年の健全育成のための事業や体験活動の一層の促進を図る。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)	②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・「青少年育成交付金」「青少年団体活動交付金」「青少年野外活動助成金」の交付等を通して、青少年団体等の活動を支援した。 ・指導者の養成や知識・技術向上のため、「青少年指導者養成講習会」を開催した。	・交付金・助成金8,059千円を交付 ・青少年指導者養成講習会を神根青少年野外活動広場にて実施。	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)	①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
このことによって、青少年の健全育成のための事業や体験活動がされに活発となった。また、リーダー養成をすることにより知識や経験、技術が次世代に継承され、継続的かつ安定的な活動の基盤づくりができた。		市全体での財源削減の傾向があり、交付金も減額する方針の影響や、昨今の物価高も併せて青少年団体の金銭的な負担が増加している。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別									
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	実績値・達成状況										
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別									
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		3 款	3 項	13 目	3 細目	4 細々目	青少年団体活動支援事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		8,674		10,619		10,651		8,656		8,656
決算額(B)=(C)+(D)		6,277		7,922		8,104				
財源※	特定財源(C)	2,900		2,900		2,900		2,900		
	一般財源(D)	3,377		5,022		5,204		5,756		
概算人件費(E)		3,080		3,160		3,240		3,320		3,320
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)			9,357		11,082		11,344		11,976 11,976

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
56 /60	青少年団体への交付金・助成金については、青少年の健全育成に基づく適切な収支となるよう働きかける。また、財源である戸田ポートレース企業団からの助成金が減額された場合は、交付基準を見直し交付額の調整等を検討する。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	はたちの集い実行委員会交付事業				担当	教育総務部 生涯学習課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	6	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)	事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市内在住の20歳を迎えた青年を対象に「川口市はたちの集い」を開催し、20歳になったことを祝い励ますと共に、大人としての自覚と自主性を促すことを目的とする。	はたちの集い参加者の代表である実行委員会が主体的に企画・運営を行い、参加者の視点や意見を取り入れたはたちの集いを実施する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)	②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	はたちの集い実行委員会に対し、補助金を交付した。	交付件数1件、交付金額11,680,000円	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)	①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	はたちの集い実行委員会により、20歳を迎えた青年の当事者が主体となってはたちの集いを実施した。	めざす姿から見た現在の進捗状況は、概ね達成できている。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	6 項	1 目	3 細目	1 細々目	はたちの集い実行委員会交付事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		11,680		11,680		11,680		11,680		11,680
決算額(B)=(C)+(D)		10,903		11,619		11,036				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	10,903		11,619		11,036		11,680		
概算人件費(E)		7,700		7,900		8,100		8,300		8,300
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)		18,603		19,519		19,136		19,980	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
58 ／60	補助金の適正な交付に努める。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	子ども大学かわぐち実行委員会交付事業				担当	教育総務部	
						生涯学習課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	24	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	補助金・負担金
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	地域の教育機関や市町村、企業等が連携し、子どもたちの知的 好奇心を刺激する講義や体験活動を提供することで、地域 で地域の子どもたちを育てる仕組みを創ることを目的とする実 行委員会に対し、補助金を交付する。		実行委員を中心に、地域の大学、高等学校、企業が連携することで、 子どもの学ぶ力、生きる力を育成する活動に寄与する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	子ども大学かわぐちの計画・実施を行う実行委員会に対し、 補助金を交付する。		補助金額 200,000円	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	実行委員を中心に、地域の大学、高等学校、企業が連携する ことで、子どもの学ぶ力、生きる力を育成する活動に寄与 した。		めざす姿から見た現在の進捗状況は、概ね達成できている。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	6 項	1 目	4 細目	2 細々目	子ども大学かわぐち実行委員会交付事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		200		200		200		180		180
決算額(B)=(C)+(D)		200		200		200				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	200		200		200		180		
概算人件費(E)		2,541		2,607		2,673		2,739		2,739
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.33	0.00	0.33	0.00	0.33	0.00	0.33 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)		2,741		2,807		2,873		2,919	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	13 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 ／15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
52 ／60	補助金の適正な交付に努める。		翌年度	効率化して実施
			翌々年度	効率化して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	地域学校協働活動推進事業				担当	教育総務部	
						生涯学習課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和	3	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	地域住民等の参画を得ながら地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校とが連携・協働することを目的とする。		地域と学校が継続的かつ主体的に連携・協働し、地域全体で子供の学びと成長を支える持続可能な体制構築を目指す。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・学校応援団に係る保険への加入と消耗品の購入 ・放課後子供教室管理運営業務委託契約の締結 ・放課後子供教室管理運営業務の委託先との連絡・調整		・学校応援団の実施学校数78校、延活動回数13,629回、ボランティア登録者数12,528人 ・放課後子供教室の実施校数45校	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・学校応援団の活動を推進することができた ・児童に対して多様な学習機会を提供することができた ・放課後子供教室の開設数が6校増加した		放課後子供教室については、小学校52校中、45校で実施した。全校設置に向け、未設置の小学校に対し働きかけを行うほか、放課後子供教室を新たに実施する主体の発掘を進める。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	学校応援団実施校数				指標・目標値の説明(算定式)	市立小・中学校全校で実施することを目標とする					
	単位	校	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		78.00		78.00		78.00		78.00		78.00		
	実績値・達成状況	78.00	達成	78.00	達成	78.00	達成					
指標②	名称	放課後子供教室開催校数				指標・目標値の説明(算定式)	市立小学校全校で開催することを目標とする。					
	単位	校	指標の種別	結果								
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
		48.00		52.00		52.00		52.00		52.00		
	実績値・達成状況	33.00	未達成	39.00	未達成	45.00	未達成					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	6 項	1 目	4 細目	3 細々目	地域学校協働活動推進事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		30,397		33,726		37,718		41,526		41,526
決算額(B)=(C)+(D)		28,386		32,891		36,517				
財源※	特定財源(C)	9,460		10,963		12,172		13,842		
	一般財源(D)	18,926		21,928		24,345		27,684		
概算人件費(E)		9,240		9,480		9,720		9,960		9,960
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.20	0.00	1.20	0.00	1.20	0.00	1.20 0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		37,626		42,371		46,237		51,486		51,486

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など	今後の実施方向性	
54 /60	学校応援団については、市立小・中学校全校で実施することができた。放課後子供教室については、全校区設置に至っていないため、今後も開催校を増やせるように努めていく。	翌年度	拡充して実施
		翌々年度	拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和6年度

事業名称	川口の元気夢わーく体験事業				担当	学校教育部	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	15	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	市立中学校に在籍する生徒のうち、1年生または2年生を対象とし、市内事業所や施設等における社会体験活動を通して社会性や自立心を養うもの。		生徒のみずみずしい感性や社会性、自立心を養い、たくましく豊かに生きる力をはぐくむこと。また、自らの生き方を考え、生涯にわたり豊かな自己実現を図ることのできる能力や態度を育成すること。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	・市立中学校の1年生または2年生が市内の事業所等で社会体験活動を行った。 ・主な業種: 第一次産業、製造業、販売業、飲食業、理容・美容、学校関係、公共施設、社会福祉施設など。 ・各学校が活動した事業所を近隣校にも共有できるよう「かわぐち案内マップ」を川口市ホームページに掲載している。		市立中学校26校の中学校に在籍する4,336名が体験活動を実施。 * 未実施校: 川口市立高等学校附属中学校 体験期間: 令和6年9月4日から令和7年1月31日 活動場所: 原則として学区内を中心に市内の事業所等(受入事業所数1,233件)	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	・体験活動を通じて望ましい職業観、勤労観を芽生えさせることができた。 ・自己理解につながり、将来の夢についても一層深く考え、将来への憧れや現在の学校生活への意欲につなげることができた。		・生徒の将来の希望やニーズに対応できる十分な数の事業所確保が難しく、業種の偏りもある。 ・外国人児童生徒や指導に配慮を要する生徒等について、十分な事前指導と事業所への説明が必要である。 ・本事業で得た成果を基盤に社会的・職業的自立に向け必要となる能力や態度を継続して育成していく必要がある。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	参加生徒数			指標・目標値の説明(算定式)	市内中学校全26校の合計参加生徒数				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
		0.00		4,000.00		4,000.00		4,000.00		4,000.00
	実績値・達成状況	0.00		4,016.00	達成	4,336.00	達成			
指標②	名称	協力事業所数			指標・目標値の説明(算定式)	社会体験活動実施に協力し受け入れる事業所数				
	単位	箇所	指標の種別	結果						
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
		0.00		1,200.00		1,200.00		1,200.00		1,200.00
	実績値・達成状況	0.00		1,119.00	未達成	1,233.00	達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	1 項	3 目	3 細目	4 細々目	川口の元気夢わーく体験事業			
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		
予算額(A)		0		482		452		511		588		
決算額(B)=(C)+(D)		0		293		415						
財 源 ※	特定財源(C)	0		0		0		0				
	一般財源(D)	0		293		415		511				
概算人件費(E)		0		2,370		2,430		2,490		2,490		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.00	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00
総事業費[(A)又は(B)]+(E)		0		2,663		2,845		3,001		3,078		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 ／15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 ／15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 ／15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 ／15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
58 ／60	事業費については、適正な業者選定を行い、コストの維持、削減を図っている。今後、細菌検査が必要な事業所が増えた場合は、学校の規模に合わせ事業費を分配するなど、コスト増大にならないよう実施方法を見直す必要がある。また、新規事業所登録の募集についても、広報誌やホームページ等により効果的な募集に努める。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和6年度

事業名称	未来を拓くふれあいトーク事業				担当	学校教育部	
						指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	28	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営
事業の概要	事業の目的・背景(誰に・何をしたいのか・実施の背景)		事業のめざす姿(事業が目指す最終的な成果)	
	選挙権年齢が18歳に引き下げられたことにより、市立中学校及び高等学校に在籍する生徒が政治や選挙に関する基本的な知識を身に付け、興味・関心を高める機会とするため、市政について市長との懇談を行うもの。		市立中学校及び高等学校に通う生徒が、選挙制度や市政等に興味・関心を持ち、川口市民としての自覚の醸成や将来の有権者としての政治意識の向上が図られた状態。	
当該年度の 実施内容及び 成果	①アクション(当該年度に何を実施したか)		②アウトプット(①を実施した結果・実績)	
	市内学校を2グループに分け入替制にて実施 ①議場見学(選挙制度、議会の仕組みについて、子どもの意見表明について) ②奥ノ本市長とのふれあいトーク テーマ「10年後の川口市、こんなまちになってほしい」		日 時 :令和6年7月17日(水) 午後1時00分 参加者:市立中学校27校より代表1名、市立高等学校より代表4名、計31名 市長、副教育長、学校教育部長、川口市議会議員等	
	③アウトカム(①②をしたことにより対象はどうなったか)		①～③を踏まえ、めざす姿から見た現在の進捗状況及び課題	
	議場を実際に見学したり、市長と直接話すという貴重な経験を通じ、市政についてより身近に感じるとともに、理解を深めるきっかけとなった。		議場見学をはじめ、市長と直接話す機会は、川口市民としての自覚をさらに高める契機となっている。 市長と話す時間に限りがあるため、代表生徒のみが参加できる企画となっている。また、夏季休業前の開催ということもあり、自校で貴重な経験を共有する時間を確保できないことが課題である。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別							
	目標値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目		川口市一般会計		10 款	1 項	3 目	3 細目	5 細々目	未来を拓くふれあいトーク事業	
年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
予算額(A)		50		50		55		55		55
決算額(B)=(C)+(D)		50		50		50				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	50		50		50		55		
概算人件費(E)		1,540		1,580		1,620		1,660		1,660
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.20	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00	0.20 0.00
	総事業費{(A)又は(B)}+(E)		1,590		1,630		1,670		1,715	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価・今後の事業展開

総評価	事業の進捗状況及び課題を踏まえた、コスト削減案や今後の方針・考え方など		今後の実施方向性	
56 /60	川口市民としての自覚の醸成や将来の有権者の政治意識を向上させるためには、市内中学生に限らず、広く市民への周知を行う必要がある。他市の事例では、市全体で運営しており、今後、より市政への興味関心を高めるためには、事業の実施方法を抜本的に見直す必要がある。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施